

『睡魔』 作…ポチ子

彼女 「眠い！！われは眠いぞ！！われは眠りを所望する！」

彼氏 「だったら叫んでないで、寝たら？」

彼女 「そういう話なら叫んでない！眠い！でも寝たくない！でも眠い！！うわああああ。」

彼氏 「なんなの、どういう気持ちなの、それ。」

彼女 「体は眠いと告げているが、私の心が寝たら負けだと言っている。うーん、寝ない！寝たくない！でも眠い！」

彼氏 「いいから寝なよ。もう24時半だし、明日特になんもないんでしょ？」

彼女 「うん、なんにもない。何にもないからこそ、早く寝たら損した気分になる。ぐぬぬぬぬ。」

彼氏 「寝たらいいじゃん。損も得もないよ、寝るのに。」

彼女 「うーん、うるさい！黙れ！」

彼氏 「もう、なんなの。どうしたいの。」

彼女 「・・・んんん、寝たい。」

彼氏 「ふふ・・・結局、寝るのね。」

彼女 「くそがー、睡魔のクソ野郎が・・・」

彼氏 「睡魔への憎しみがすごいんだよなあ。はー、今日布団干し

たばっかだし、気持ちいいよ。ほら横になって。」

彼女、のそのそとベッドに移動する。

彼女 「ね、気持ちいいでしょ。」

彼女 「うーん、お日様の香りがする。．．．ぐぬぬぬぬ。」

彼氏 「なんでまだ睡魔に抵抗しようとしてんの。．．．もう、分かった分かった。腕枕してあげるから、早く寝なさい。」

彼女 「うーん．．．よしとする。」

彼氏 「ふふ、やっと諦めた。ほら、ちょっと寄って。んじゃ電気消すよー。．．．おやすみ。」

彼女 「うん、おやすみなさい。」

— 終わり —